取扱説明書

紙折機　　　ＬＦ－８４２Ｎ

ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよく
お読みください。また、いつでもお読みになれる
よう保管場所を決めて、大切に保管してください。

●ご使用の前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

●ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、危害や損害を未然に防止するためのものです。

●[安全上の注意]に使用されている絵表示の例。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。（左図の場合は高温注意）

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。（左図の場合は分解禁止）

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）

安全上の注意

⚠ 警　告

	アース接続してください。 漏電した場合、感電を防止します。
	この機器は５０Hｚと６０㎐で別仕様です。周波数が仕様外の場合、火災・故障の恐れがあります。 交流１００Ｖで使用してください。電圧が高すぎたり低すぎたりする場合、火災・故障の恐れがあります。
	この機器の上に物をのせないでください。機器内部に水・異物が入った場合、火災・漏電の恐れがあります。
	電源コードの扱いには十分注意してください。 傷付ける・破損させる・加工する等の行為をしないでください。火災・感電の恐れがあります。 重量物をのせないでください。火災・感電の恐れがあります。 プラグやコードを無理に曲げないでください。火災・感電の恐れがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の恐れがあります。
	この機器のカバーは外さないでください。感電やケガの恐れがあります。
	この機器を改造しないでください。火災・感電の恐れがあります。
	発熱していたり煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の恐れがあります。すぐに電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントからぬいてください。そして販売店にご相談ください。
	電源コードが熱を持ったり、異臭がするなど異常があったらすぐに電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントからぬいてください。そして販売店にご相談ください。
	異物が機器に入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。
	雷が近づいてきたら、落雷による火災・故障を防ぐためコンセントを抜いてください。

⚠ 注　意

	髪の毛・ネクタイ・ネックレスなどを駆動部にたらさないでください。けがの原因になります。
	ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。
	湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因になります。
	電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因になります。
	本機器を移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因になります。
	連休等で、本機を使用にならない時は安全のため必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

はじめに

ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよくお読みください。
この「取扱説明書」は、必要な時にいつでもお読みになれるように、保管場所を決めて大切に保管してください。
この製品は改良のために、仕様を変更する場合があります。このため、同一製品においても「取扱説明書」の記載内容が異なる場合がありますので、製品ごとの「取扱説明書」を混同して使用しないでください。

目次

１． 設置前の注意事項

１． １　設置場所の確認

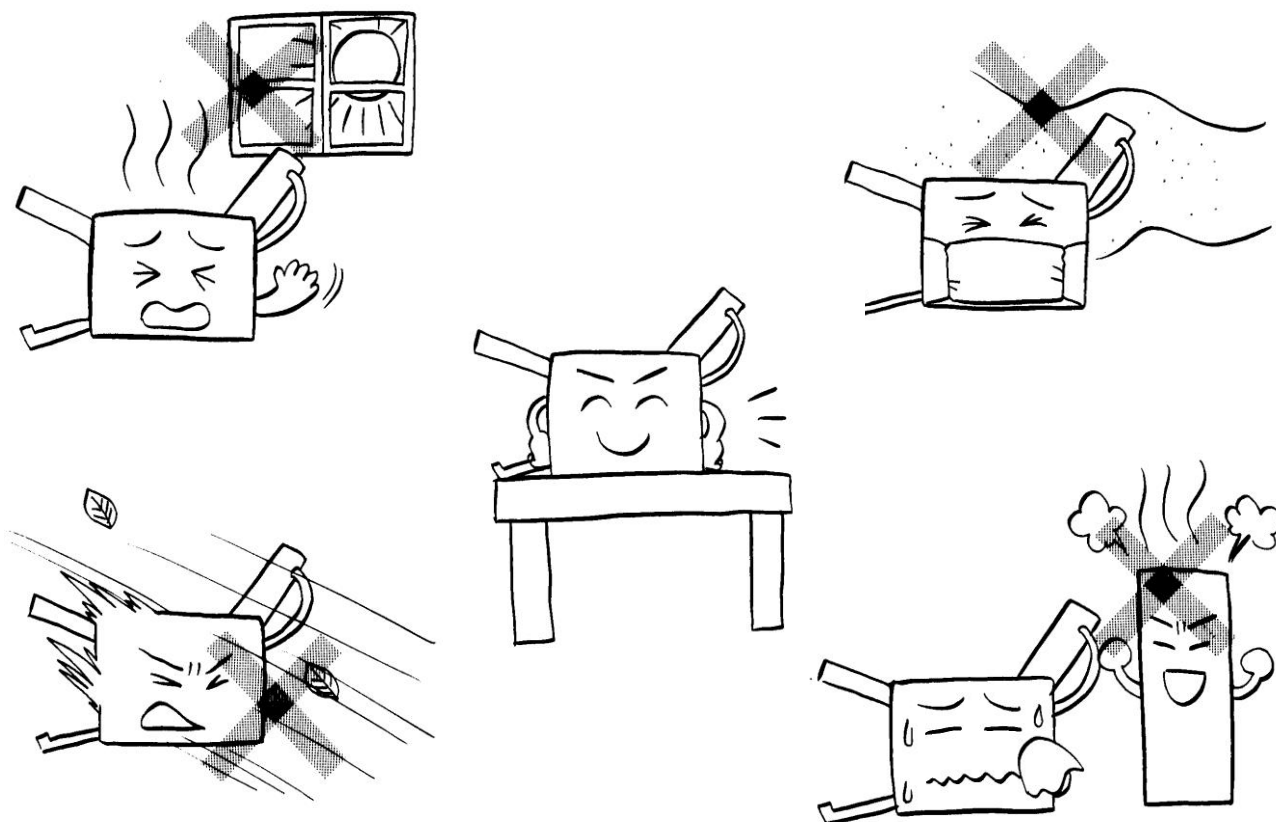
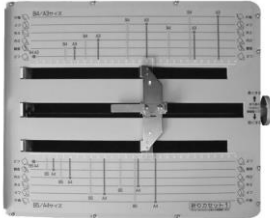
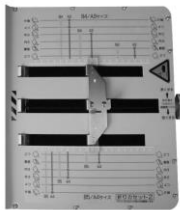
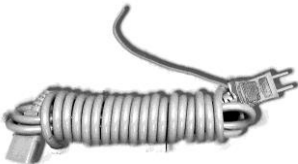
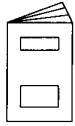
次の条件を満たした場所に設置してください。

・直射日光の当たる場所に設置しないでください。

・窓際は避けてください。

・湿気やほこりの多い場所は避けてください。

・風の当たるところ、熱を発生する機器付近での使用は避けてください。

・丈夫で水平な台又はテーブル上に設置してください。

１． ２　搬入時の注意

・衝撃や激しい振動が製品本体に加わらないようにていねいに取り扱ってください。

・保護手袋をし、２人で底面４隅をしっかり持って運搬してください。

１．３　付属品の種類・数量の確認

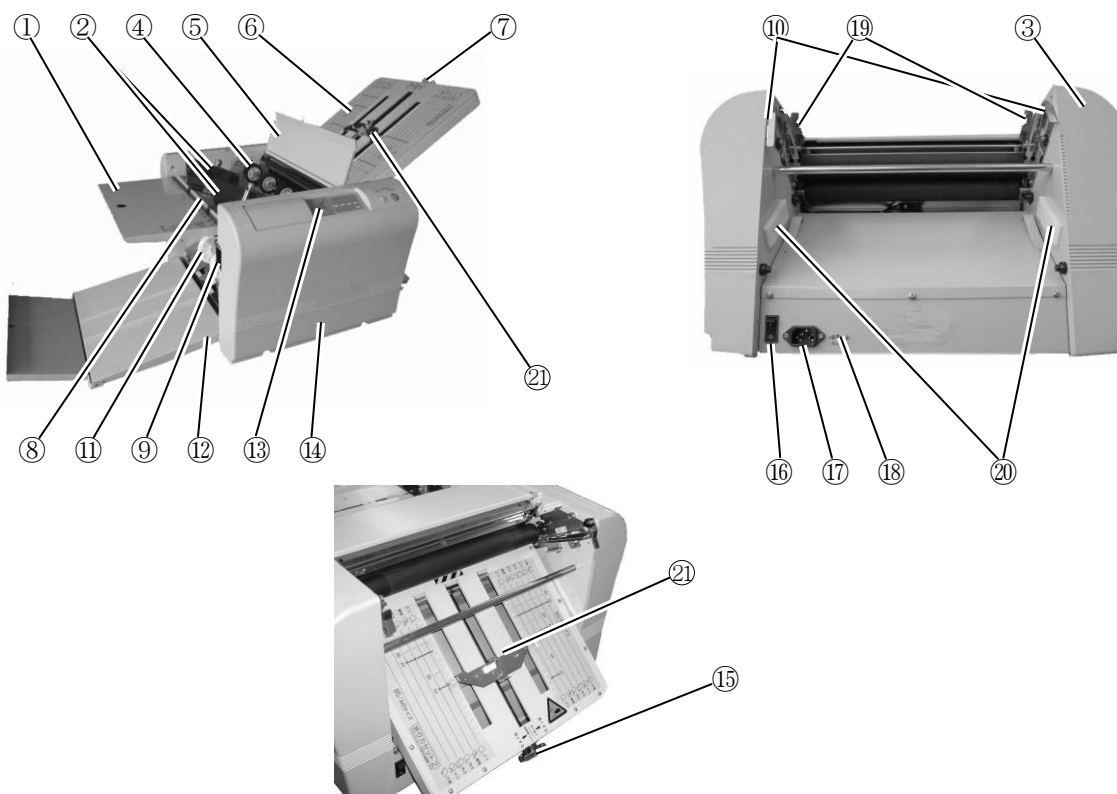
開梱したら、付属品の確認をしてください。

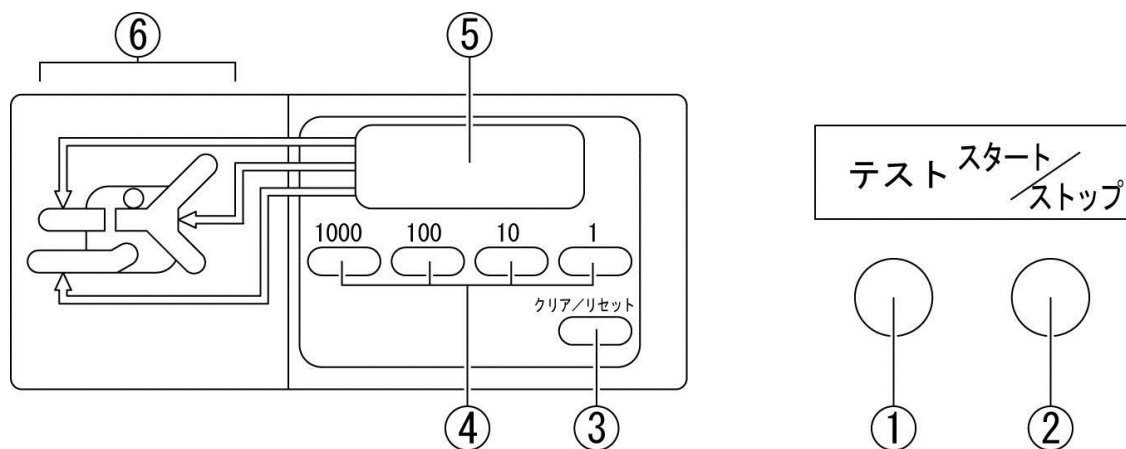
万一不足していたらすぐに販売店に連絡してください。

また、保証書の記入をお願いします。

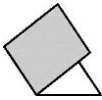
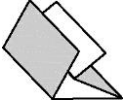
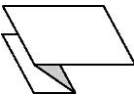
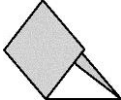
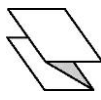
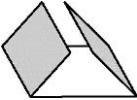
付属品	個数	図
折りカセット１	１	
折りカセット２	１	
電源コード 注意：形状は異なる場合があります	１	
補助用紙ガイド右・左	各１	
機械カバー	１	
取扱説明書	１	
簡易マニュアル	１	
保証書	１	

２．　製品各部の名称

２．１　外観

番号	名　称	はたらき	番号	名　称	はたらき
①	補助テーブル	大きい用紙を支える	⑫	排紙テーブル	折った用紙を蓄える
②	用紙ガイド(右/左)	給紙時の曲りを防止	⑬	操作パネル	枚数設定など
③	左化粧カバー	メカ部の保護	⑭	右化粧カバー	メカ部の保護
④	給紙ローラー(3 個)	用紙を１枚だけ給紙	⑮	折りカセット２	2 回目の折り
⑤	安全カバー	開けると動作が停止	⑯	電源スイッチ	電源の入・切
⑥	折りカセット１	1 回目の折り	⑰	インレット	電源コードをつなぐ
⑦	ストッパー微調整ツマミ	折りずれを修正	⑱	ブレーカ	過電流保護
⑧	給紙テーブル	用紙を載せる	⑲	折りカセット１ガイド(右/左)	折りカセット１セット用ガイド
⑨	給紙テーブルレバー	給紙テーブルを上下させる	⑳	サイドガイド(右/左)	折りカセット 2 のセット用ガイド
⑩	折りカセット１ストッパーレバー（右/左)	折りカセット 1 を固定する	㉑	折り位置ガイド	折り位置を決める突き当て
⑪	排紙ローラー	折った用紙を整えて排出			

２．２　操作パネルシート部

番号	名称	はたらき
①	テストキー	テスト折りを２枚（カウンタに影響しないで２枚のみ折る）
②	スタート／ストップキー	スタートとストップ
③	クリア／リセットキー	カウンタをクリア・エラーをリセット
④	数字キー	減算カウンタ時枚数を入力
⑤	カウンタ	枚数を表示
⑥	エラーマップ	紙詰まり・スリップ・ジャム発生時、発生場所を表示

３．　特に注意していただきたいこと

３．１　用語の定義

３．１．１　マーク解説

注意！　注意していただきたいことです。
ポイント！知っていると便利なことです。

３．１．２　用語・折形解説

名　称	解　説
ジャム	用紙が機械内部で詰まること
重送	２枚以上重ねて（折りカセット１・２内）給紙すること
スリップ	用紙が送り込まれないこと
原位置	折りカセット１の折り位置ガイドがいちばん左側にあること （微調整ツマミを右に見たとき）
さばく	用紙どうしがはりついている状態をはがすこと

図						
折　形	２つ折り	４つ折り	片袖折り	内３つ折り	外３つ折り	観音折り

図の着色部は、給紙テーブルに用紙を下向きにセットしたときに折られた状態です。

３．２　特徴および使用目的

・操作が簡単です。
・プリセットカウンタ（枚数表示を繰り返す）により必要枚数をすばやく折ることができます。
・用紙の断裁が曲がっていた場合および斜めに折られたときに、曲がりを補正する機能として斜行調整ツマミがあります。
・紙詰まり・スリップ・用紙が「０」になったときには、「エラーマップ」上に発生場所を表示します。
・２つ折り･４つ折り･片袖折り･内３つ折り･外３つ折り･観音折りの６種類の折形とクロス折りができます。

３．３　使用しないとき

・電源プラグをコンセントからはずしてください。
・機械カバーを掛けてください。

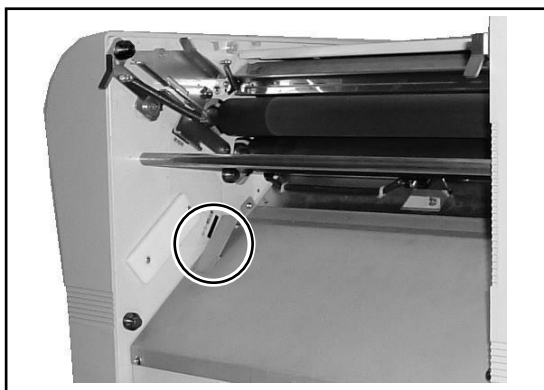
３．４　使用上の注意

・安全カバーの開閉はツマミを持ってください。用紙ガイドにはさまれる恐れがあります。
・特に重要な書類は事前に折りテストをして折り位置の確認をしてください。
・理由を問わず、用紙の折ずれ・破損の補償はご容赦ください。

４．　使用前の準備

４．１　付属品を取付ける

（１）電源コードをインレットに差し込みます。

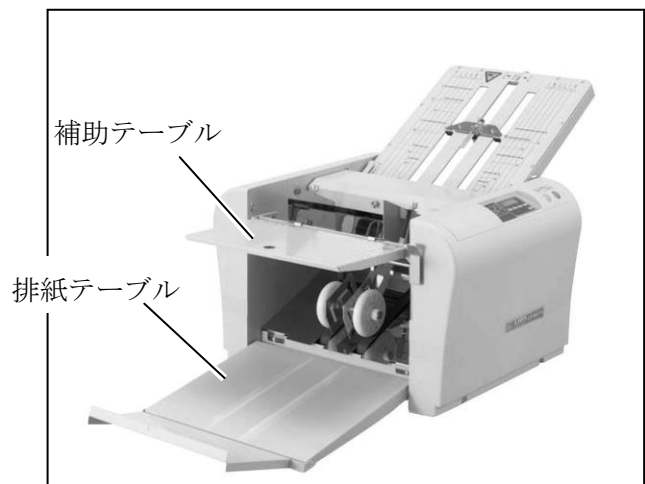
（２）折りカセット２を取り付けます。

突起部分にカセット２を滑らすように矢印方向斜め４５度程度の角度で差し込みます。

（３）折りカセット１を取り付けます。

両側にある丸印の折りカセット１ガイドに沿わせるようにして、折りカセット１を差し込みます。

側面の角穴が本体サイドカバーの面に
丁度合うように押し込んでください。

折りカセット１がストッパーレバーでしっかり
と固定されていることを確認してください。

（3）排紙テーブルを広げて、補助テーブル
　　を持ち上げるようにしてセットします。

注　意

折りカセット１・２が正しくセットされて
外れてけがの原因になります。

（4）電源コードをコンセントに差し込みます。

注意！

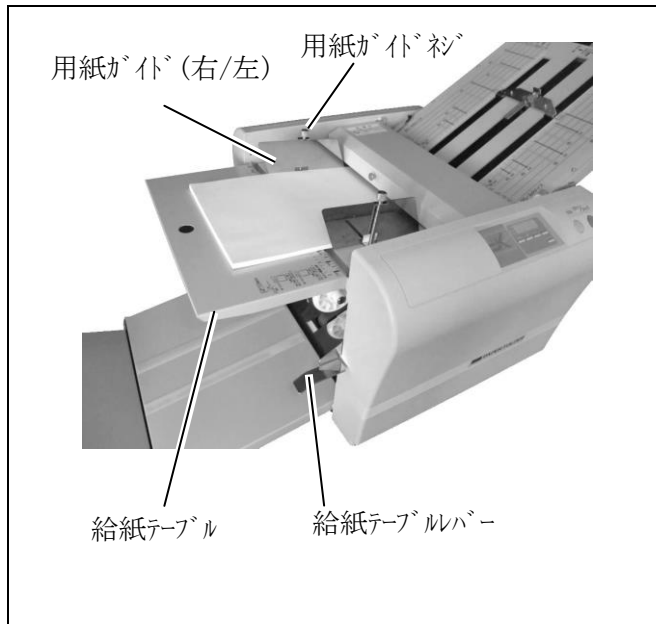
・必ずほどいて使用してください。
・付属の電源コード以外は使用しないでください。
・電源コードのアース線は必ず接地（アース）してください。
・電源コードのプラグ形状は異なる場合があります。
・接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。又、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

<table>
<tr><th colspan="2">⚠ 警　告</th></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の恐れがあります。</td></tr>
<tr><td>電源コードのアース線は電源コンセントに挿入または接触させないでください。
火災・感電の原因になります。</td></tr>
</table>

（5）電源スイッチをオンにします。

５．　使用方法

５．１　規格用紙（Ａ３・Ａ４・Ｂ４・Ｂ５等）の定形折り

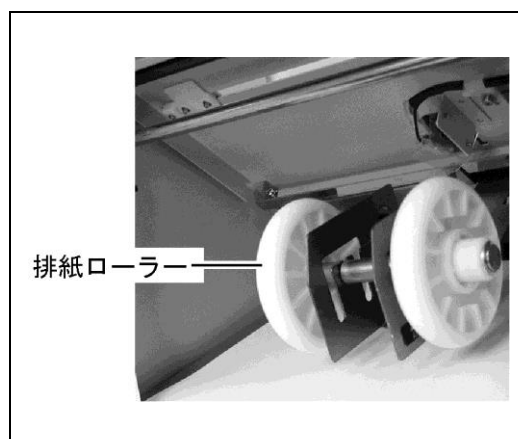
（１）給紙テーブルレバーを上げて、給紙テーブルを下げます。
（２）用紙ガイドネジをゆるめて用紙ガイド(右/左)を使用する用紙の目盛りに合わせます。
（３）給紙テーブル上に用紙をきれいに揃えて積みます。
（４）用紙ガイドと用紙の隙間が無いようにして用紙ガイドネジを締めます。
（５）給紙テーブルレバーを下げて用紙をセットします。

注意！

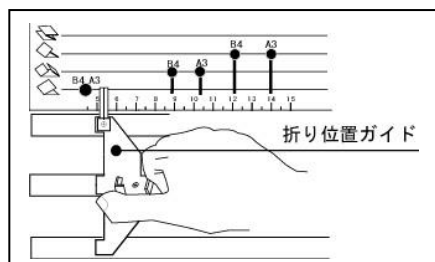
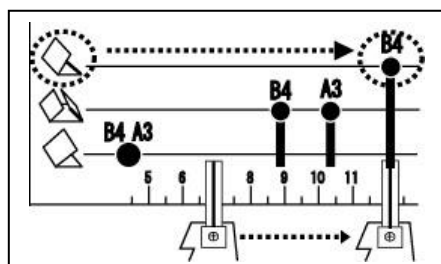
・印刷直後の用紙はジャム・重送・スリップ・用紙シワの原因になりますので必ず乾いてから使用してください。

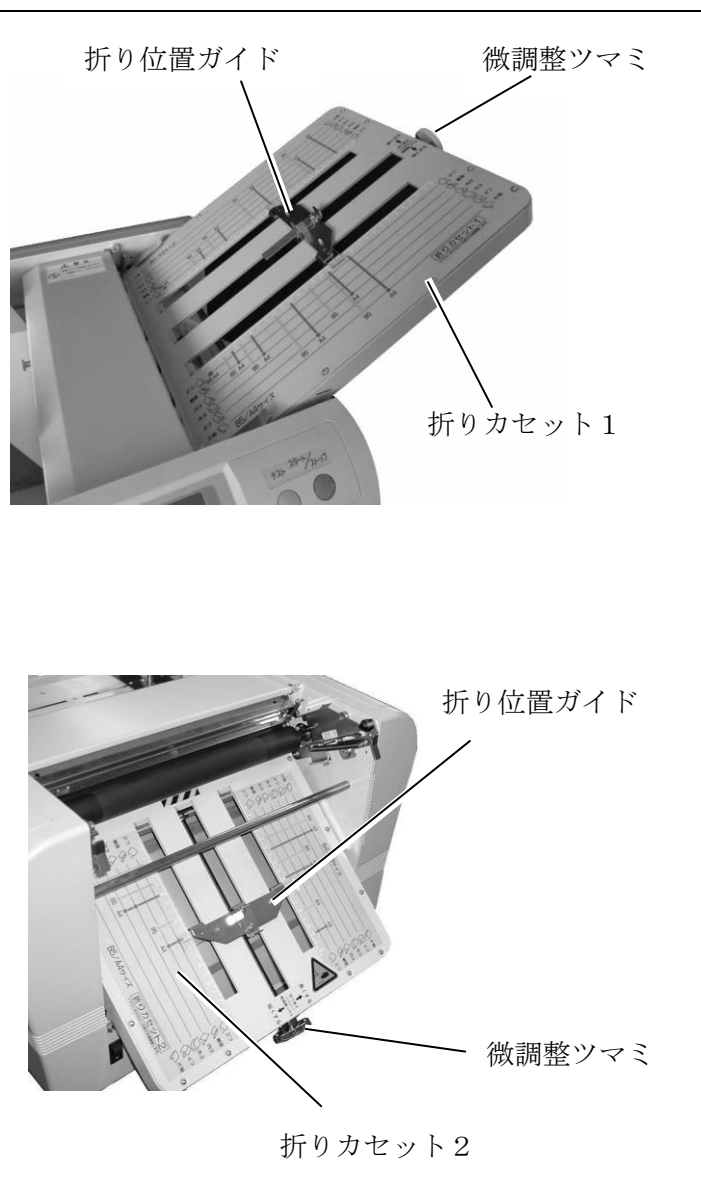
・片袖折りの場合は、印刷面を下にしてください。

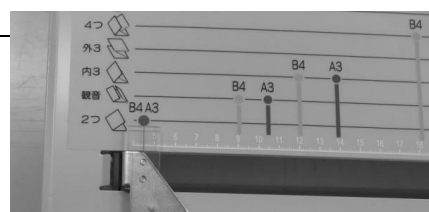
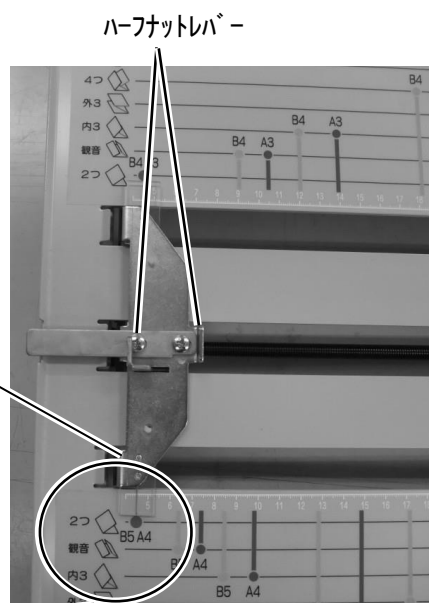
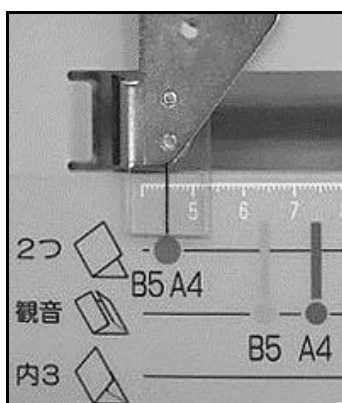
・用紙をセットするときは、印刷面に注意してください。用紙のセット状態と折られた状態は、９ページ「３．１．２　用語・折形解説」の表を参考にしてください。

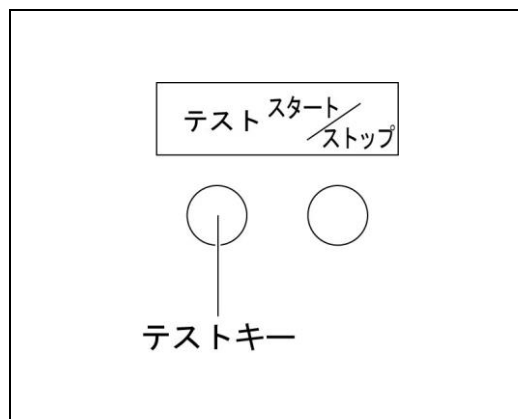
・用紙ガイドと用紙に隙間があると折りずれの原因になります。

（６）排紙ローラーを用紙サイズ（Ａ３・Ａ４・Ｂ４・Ｂ５）に合った位置に移動します。
用紙サイズと排紙ローラーの位置関係は「ローラー位置表示」シールを参考にしますが、もしも排紙がスムーズでない場合は、排紙ローラの位置を変えてください。排紙がスムーズにいかない場合、折り速度が遅くなります。

（７）折り位置をセットします。

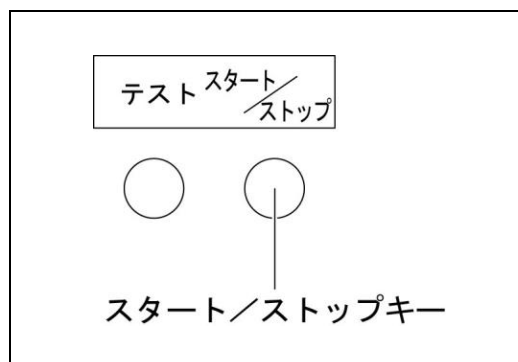
折り位置ガイドのハーフナットレバーを指で挟みます。

折りカセット１・２の目盛りの位置に折り位置ガイドを合わせます。

ハーフナットレバーを離すと折り位置ガイドは自動的にその位置でロックします。

微調整はストッパー微調整ツマミで行ってください。
２０ページ**「５．７．２　折りカセット１・２の微調整」**参照

注意！
２つ折りの場合のみ全サイズ共折りカセット１は「●赤丸」の位置にセットしてください。また。２つ折りでシワ、及び異常な折りかたが発生した場合は、微調整ツマミでストッパープレートが止まるまで短い方向に（先端）に出してください。

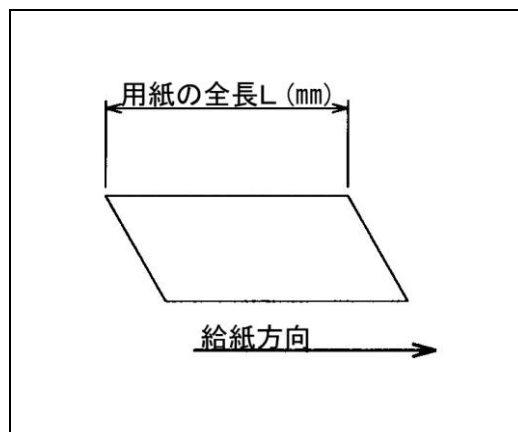
ハーフナットレバー

（８）試し折り

「テスト」キーを押すと、２枚折ります。
（カウンタは動きません）
２枚目の折った用紙で仕上がりを確認します。
折りずれが発生する原因
・ローラーの汚れ
・用紙ガイドのセットが曲がって固定されている又は用紙ガイドと用紙の間に隙間がある
・給紙テーブルが曲がっている
・用紙の裁断が曲がっている
折りずれを修正する場合
→　２０ページ**「５．７　調整」**参照

⚠ 注　意	
	ローラーなどの駆動部には絶対に手を触れないでください。 けがの原因になります。
	髪の毛・ネクタイ・ネックレス等をローラーなどの駆動部にたらさないでください。 けがの原因になります。

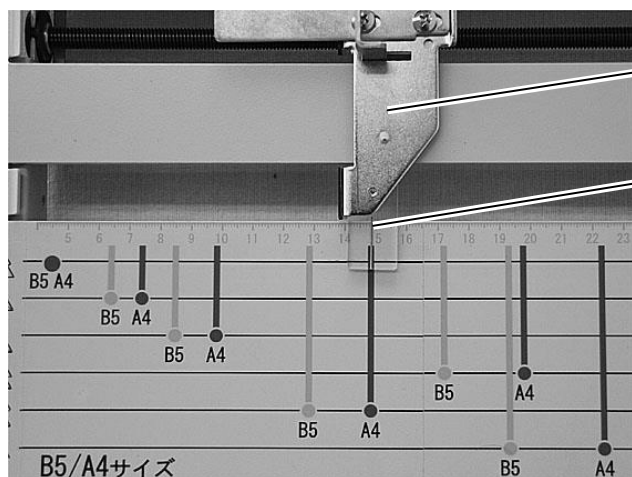
（９）連続折り

「スタート/ストップ」キーを押すと、連続して用紙を折ります。動作中に、もう一度押すと停止します。
カウンタは加算していきます。
「クリア」キーを押すとカウンタは「０」に戻ります。
希望枚数のみ折りたい場合
→　２１ページ**「５．８　カウンタ」**参照

５．２　規格外用紙（Ａ３・Ａ４・Ｂ４・Ｂ５等以外）の折り位置セット方法

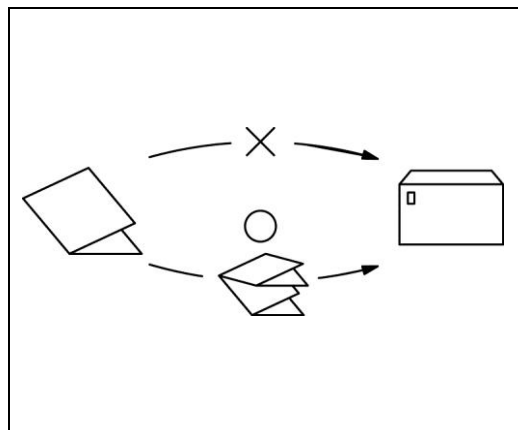
（１）用紙の長さを測ります。
折りたい形に合わせて下表より折りカセット１・２の折りたい長さを計算し、折り位置ガイド（指針）を移動させます。

用紙の長さと、折りカセット１・２の折り位置ガイド（指針）位置関係。

（単位　mm）

	折りカセット１	折りカセット２
２　つ　折　り	原位置	１／２Ｌ
４　つ　折　り	１／２Ｌ	１／４Ｌ
片　袖　折　り	３／４Ｌ	１／４Ｌ
内　３　つ　折　り	１／３Ｌ	１／３Ｌ
外　３　つ　折　り	２／３Ｌ	１／３Ｌ
観　音　折　り	１／４Ｌ	１／２Ｌ

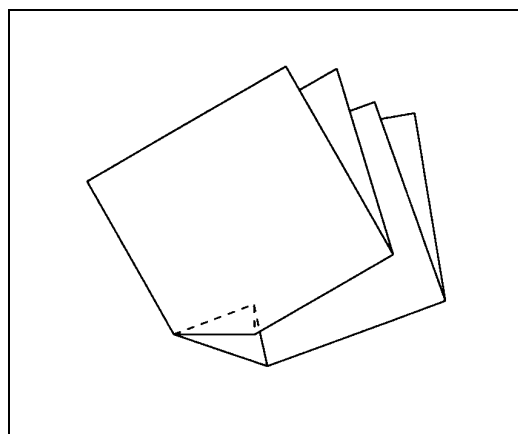
例）３００ｍｍの用紙を４つ折りにする場合。
折りカセット１＝３００×（１／２Ｌ）＝１５０ｍｍ
⇒折り位置ガイドの指針を１５㎝の位置に合わせます
折りカセット２＝３００×（１／４Ｌ）＝７５ｍｍ
⇒折り位置ガイドの指針を７．５㎝の位置に合わせます

５．３　クロス折り

・クロス折りとは、２つ折りした用紙をさらに４つ折りや内３つ折りなどにすることをいいます。

・Ａ３の用紙を４つ折りしただけでは封筒に入らない場合などにクロス折りをします。

注意！

クロス折りに使用できる用紙は諸条件によって変動します。

・用紙種類
・用紙サイズ
・縦目・横目
・温度・湿度
・印刷状態

通常の折りより横ズレが大きくなったり、折った角が内側に折れる現象が起こる場合がありますが機械の故障ではありません。

注意！

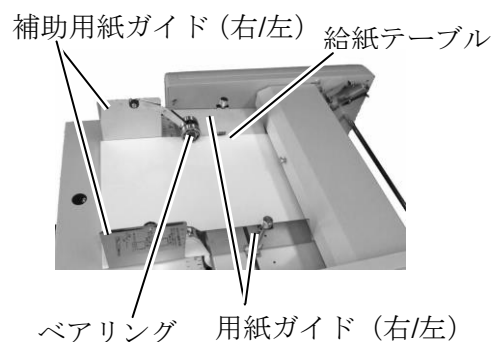
・２つ折りした折り目を手でよくしごきます。

・用紙は少な目に積みます。（３０枚以下）

・補助用紙ガイドは、用紙ガイドにあたらないように目盛のシールより手前に置きます。

（１）２つ折りにした用紙を給紙テーブルにのせ、用紙ガイドを密着させて固定します。
（２）左右の給紙補助ローラーのネジをプラスドライバーでゆるめて、用紙の両端をおさえる位置にセットします。
（３）補助用紙ガイド右左を用紙サイズの目盛りの位置に置き、先端のベアリングが用紙のふくらみをおさえるようにおきます。

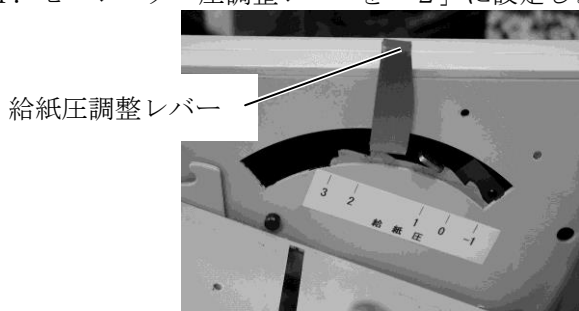
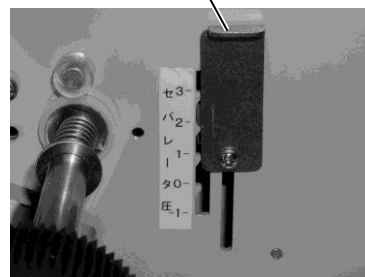
注意！

給紙補助ローラーの材質は樹脂のため、ネジを締める際は締め過ぎて給紙補助ローラーが割れないよう十分注意してください。

５．４　アート紙／コート紙を折る方法

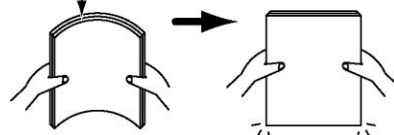
１．給紙ローラー軸を外します。

２５ページ「６．５　用紙セパレーター・給紙ゴムローラー・ブレーキゴムの脱着について」参照

２．ツマミをゆるめてアート紙／コート紙用用紙セパレーターを取外し、標準で装着されている用紙セパレーターと交換します。

３．給紙圧調整レバーを「１」に設定します。
４．セパレーター圧調整レバーを「２」に設定します。

５．用紙をよくさばいてから積みます。

注意！

・「アート／コート」の印刷物は印刷インクにより用紙の密着度が非常に強い場合があります。その場合上記２．および３．の設定だけでは給紙ミスが発生しやすくなるため、用紙を給紙テーブルにセットする前には必ずさばいてください。

ポイント！

- **一般的な紙質のアート紙／コート紙であれば上記設定（さばき入）で給紙可能です。**
- **上下左右各数回ずつさばくと紙送りが良くなります。**
- **用紙積載量が多いと給紙不良発生率が高くなります。**
- **アート紙／コート紙は静電気が発生しやすい用紙です。静電気による給紙不良が頻繁に発生し始めましたら、折りカセット１・折りカセット２を外し、先端の用紙進入口付近に静電気除去スプレーを吹き付けて静電気を取除きながら給紙させてください。静電気除去はできる限りこまめに吹き付けながら給紙することをお勧めします。**

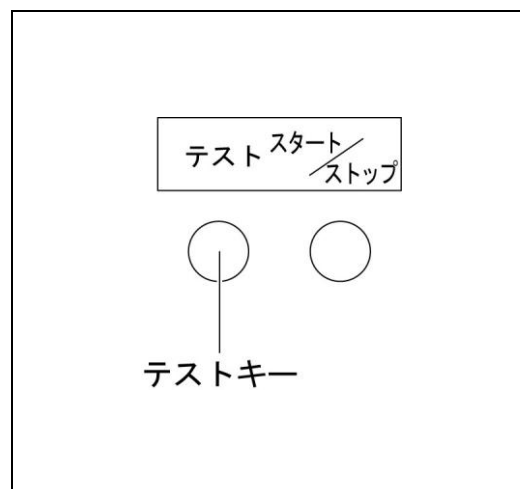
＜複数枚給紙が多発する場合＞
・上記５．を参考に、再度用紙をよくさばいてください。
・給紙テーブルにセットする用紙の積載量を１cm以下にしてください。
・セパレーター圧調整レバーを「２」→「３」に変えてください。
・セパレーター圧調整レバーの数字が大きくなると用紙をさばく力が強くなります。

＜給紙スリップが多発する場合＞
・給紙圧調整レバーを「１」→「２」に変えてください。
・給紙圧調整レバーの数字が大きくなると用紙を送る力が強くなります。

５．５　ショート給紙モード（小さな用紙を折る場合の特殊機能）

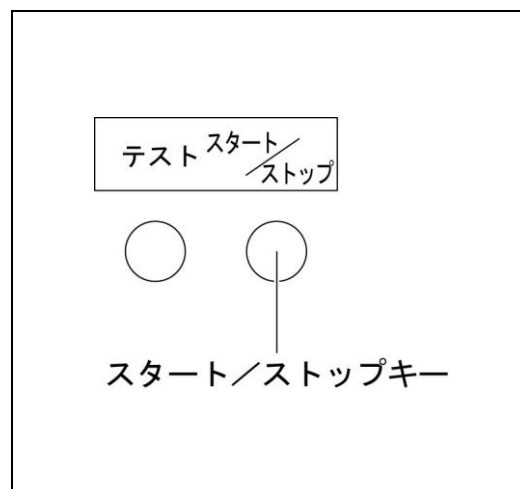
Ａ６やＢ７サイズの小さな用紙を給紙したときに連続して折られる現象が発生したときに使います。

・操作方法
　①電源をオフにします。
　②「テスト」キーを押しながら電源をオンにします。

・電源を一度切って、再度電源を入れ直したときは、通常状態に戻ります。

５．６　ロング給紙モード（スリップが多発する場合の特殊機能）

特に厚手の用紙を給紙するときは、スリップが多発する場合があります。そのときにこの機能を使うとスリップの発生を減少させることができます。

・操作方法
　①電源をオフにします。
　②「スタート／ストップ」キーを押しながら電源をオンにします。

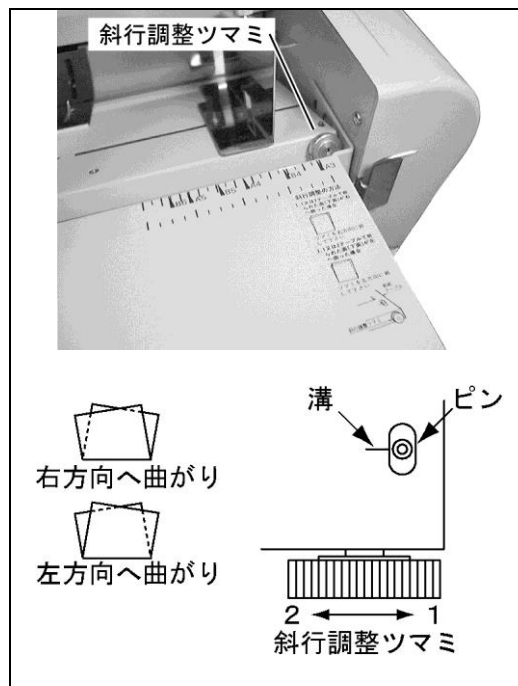
・電源を一度切って、再度電源を入れ直したときは、通常状態に戻ります。

５．７　調整

５．７．１　斜行調整

用紙裁断時の曲がり、その他の要因で折り合わせが曲がっている場合は、斜行調整ツマミで曲がりを修整することができます。（基本位置はピンが溝のある中央にあります）

排紙された状態のままみて、用紙の下面が
右へ曲がった場合は斜行調整ツマミを右方向１へ、
左へ曲がった場合は左方向２へまわしてください。
※万が一斜行の曲がりが発生した際は、まず用紙ガイドと用紙の間に隙間がないか確認してください。

注意！

・２つ折り以外の場合は折りカセット１で折られた面を下にして斜行調整してください。
・用紙をかえた時は、斜行を調整し直してください。
・作業後は斜行調整ツマミを基本位置に戻してください。

５．７．２　折りカセット１・２の微調整

※折り形の図は排紙テーブルに出てきた用紙を操作パネル側から見た状態で表しています。

	折り形	２つ折	観音折	内３つ折	外３つ折	４つ折	片袖折
折りカセット１	紙折りの状態（実線の長さを折りカセット１で調整します）	折りカセット１を通りません					
	実線部が長い場合		短	短	短	短	短
	実線部が短い場合		長	長	長	長	長
折りカセット２	紙折りの状態（実線の長さを折りカセット２で調整します）						
	実線部が長い場合	短	短	短	短	短	短
	実線部が短い場合	長	長	長	長	長	長

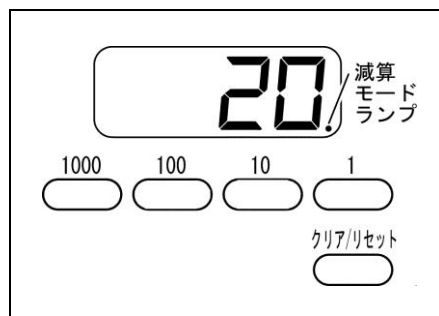
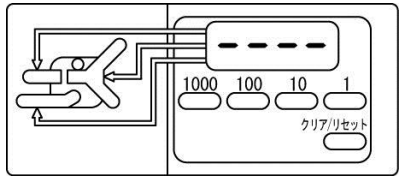
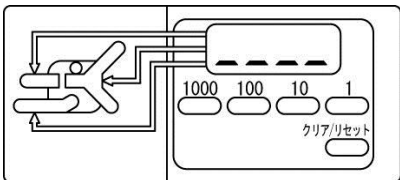
５．８　カウンタ

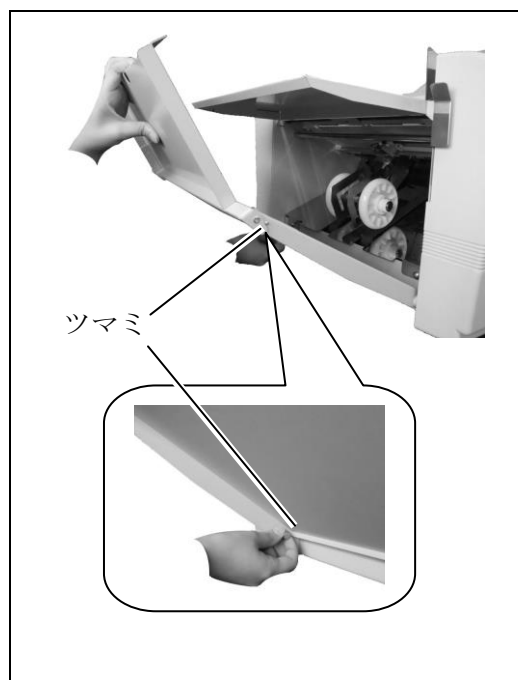
（1）加算モード：１枚折るごとに、カウンタが１ずつ増えます。

「クリア/リセット」キーを押し、カウンタを０にします。

（2）減算モード：１枚折るごとに、カウンタが１ずつ減ります。

「クリア/リセット」キーを押し、カウンタを０にします。
希望の枚数を「数字」キーで入力します。

（ここでは２０枚とします。）
減算モードランプが点灯します。

５．９　排紙テーブルの取り外し方

- 排紙ﾃｰﾌﾞﾙは取り外し可能になっています。
- 大量に排紙する場合及び設置ｽﾍﾟｰｽがない場合は排紙ﾃｰﾌﾞﾙを外して使用してください。
- 排紙ﾃｰﾌﾞﾙはﾂﾏﾐで固定してあります。
- 取り外す場合はﾂﾏﾐ（左右）を緩めて外します。

５．１０　エラー表示・状況・対策

次のような時、機械は自動的に停止します。

表　　示	状　　況	対策
1000 100 10 1 クリア/リセット	①用紙が無い状態でスタート/ストップキーを押した時 ②給紙テーブルレバーが上がっている状態でスタート/ストップキー･テストキーを押した時 ③減算モードで動作中に用紙がなくなった時	①用紙をセットする ②給紙テーブルレバーを下げる ③用紙を補充する
1000 100 10 1 クリア/リセット	①給紙スリップ発生時 ②折りカセット１･２内で紙詰まり発生時 ③安全カバーが開いている時	①用紙セパレーター・給紙ゴムローラー清掃又は交換 ２３ページ「**６．２日常のお手入れ**」、２５ページ「**６．５用紙セパレーター・給紙ゴムローラーの脱着**」参照 ②折りカセット１・２を外し詰まった紙を取除く ③安全カバーを閉める
1000 100 10 1 クリア/リセット	①排紙テーブル満杯時 ②排紙部紙詰まり発生時 ③排紙センサーの汚れている時	①排紙部の紙を取る ②紙詰まりを取り除く ③排紙センサーの清掃 ２４ページ「**６．４排紙フォトセンサーの清掃**」参照

６．　保守・点検・消耗品

６．１　点検・お手入れ時の注意事項

⚠ 警　告

点検・手入れ時には電源プラグをコンセントから抜いてください。
けが・感電の恐れがあります。

６．２　日常のお手入れ

・折りローラーに紙粉やホコリがたまると紙折りに支障をきたす場合があるので、使用しない時は機械カバーをかけてください。
・折りローラーに紙粉及び印刷物のインクが付着するとシワ、紙詰まり等トラブルの原因になるので定期的にゴムローラー専用クリーナー※と布切れを用いて清掃してください。
・　折りローラーは１本ずつ、ゴムローラー専用クリーナーを浸した布切れで力いっぱいこすり、何も汚れが取れなくなるまで拭いてください。
・折りローラーの清掃は脱着可能な２本の折りローラーを外して行うと清掃がしやすくなります。
２４ページ「６．４折りローラーの脱着」参照
・紙粉及び印刷物のインク等が給紙ゴムローラーや用紙セパレーターに付着すると給紙性能が低下し、紙詰まりやスリップの原因になるのでゴムローラー専用クリーナーを用いて清掃をしてください。
・外装部の汚れはアルコール又は清掃用クリーナーを使用してください。
溶剤系の洗浄液は変色の原因になるので使用しないでください。

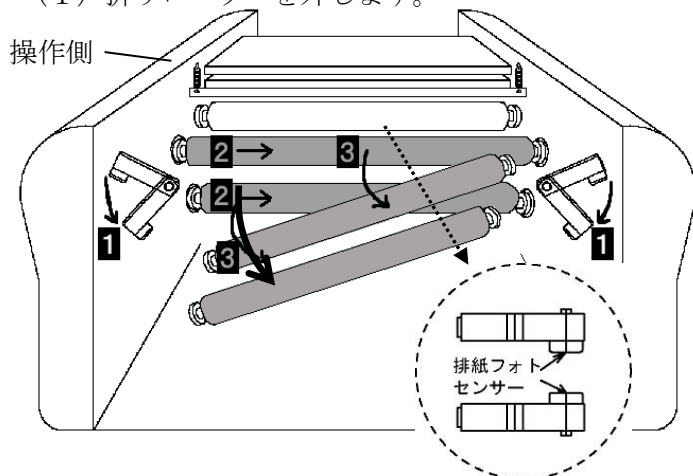
※ゴムローラー専用クリーナー　ＬＧ－ＣＬ５００　：注文コード　８４６－２４

６．３　消耗品について

製品に使用されている給紙ゴムローラー、ブレーキゴム、用紙セパレーターは消耗品です。
交換が必要な場合は、お買い求め販売店までご連絡ください。

６．４　折りローラーの脱着／排紙フォトセンサーの清掃について

＜折りローラーの脱着・排紙フォトセンサーの清掃＞
工具を使用しないで２本の折りローラーを脱着することができます。
折りローラーや排紙フォトセンサーの清掃が簡単になります。
残りの２本のローラーは、脱着できないので少しずつまわしながら清掃します。
用紙を１枚しか給紙しない場合は排紙フォトセンサーの、矢印の面に付着した紙粉をやわらかい綿棒で取除いてください。

（１）折りローラーを外します。

1～3の順に上のローラーから外し、次に下のローラーを外します。

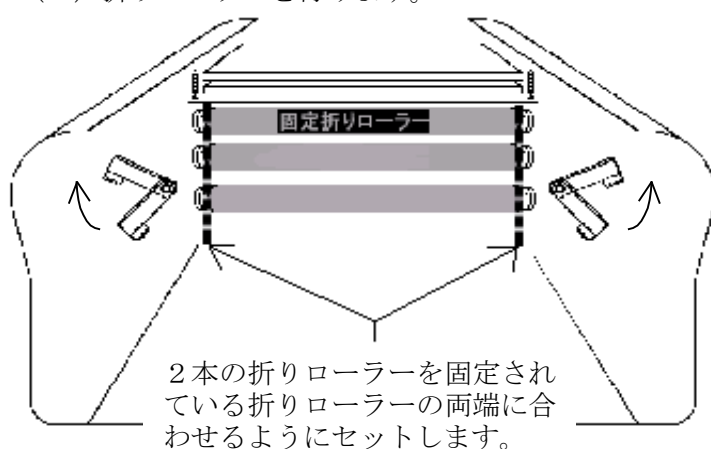
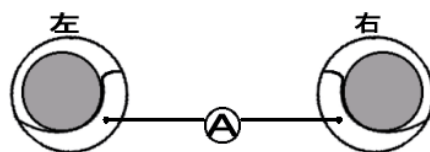
1 ローラー脱着レバーを「ローラー解除位置」側に下げます。

2 ローラーを右にずらします。

（左穴から軸が外れます）

3 右穴からローラーを外します。

（２）折りローラーを付けます。

２本の折りローラーを固定されている折りローラーの両端に合わせるようにセットします。

外した時とは逆の要領で下のローラーから着けていきます。
①ローラーを右奥まで差し込みます。
②ローラーを軽く持ち上げながら左にスライドさせます。
※左右のローラー軸がＡの部分に引っかからないよう注意してください。

上図のようにローラーの軸がＡに乗るようになります。
③ローラー脱着レバーを「使用時」側に上げます。

注意！
確実に折りローラーをはめないと故障の原因になります。はめられない場合は裏表紙に掲載されているところまでご連絡ください。

排紙フォトセンサー

６．５　用紙セパレーター・給紙ゴムローラー・ブレーキゴムの脱着について

給紙ゴムローラーと用紙セパレーターを交換する際は、下記の要領で取外しを行ってください。

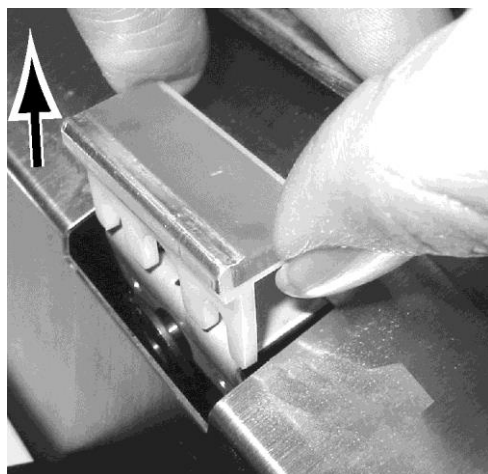
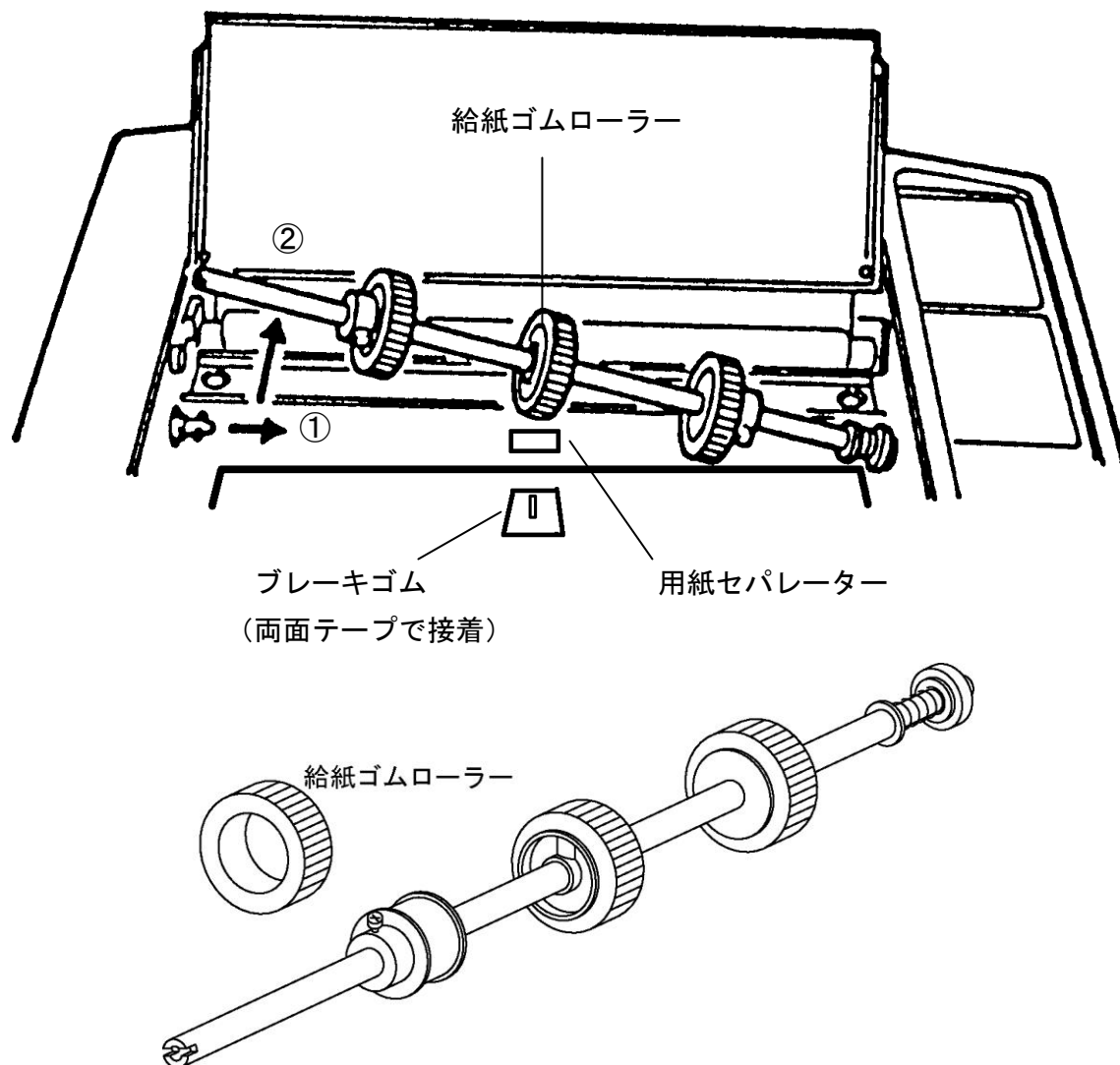
給紙ゴムローラー

②

①

ブレーキゴム
（両面テープで接着）

用紙セパレーター

給紙ゴムローラー

用紙セパレーター（樹脂付）の両端を持ち、引き抜きます。
取付は逆の要領で行います。

上記部品はご購入の販売店へご発注ください。

7．トラブル時の処置

7．1　トラブルの内容と処置

現　象	原　因	処　置	参　照
折りずれが生じる	微調整がされていない	微調整ツマミで折りずれ修整	5.7.2 折りカセット1･2の微調整
	折りローラーが汚れている	折りローラー清掃	6.保守･点検･消耗品
	用紙ガイドのセットが曲がっていて固定されている又は用紙に密着していない	用紙ガイドを用紙に密着させる	
	給紙テーブルが曲がっている	斜行調整ツマミで給紙テーブルをまっすぐにする	5.7.1 斜行調整
	用紙の裁断が曲がっている	斜行調整ツマミで調整する	5.7.1 斜行調整
	更紙など薄口で反っている用紙を使用している	用紙交換または（可能であれば）裏返す	
紙詰まりが多発する	折りローラーが汚れている	折りローラー清掃	6.保守･点検･消耗品
	折りローラーが正しくセットされていない	折りローラーを正しくセットする	
	仕様外の用紙を使用している	仕様内の用紙を使用する	
	折りカセット1・2が正しくセットされていない	折りカセット1・2を正しくセットする	4.1 付属品を取付ける
	用紙通過部に紙片が詰まっている	各部点検し紙片を取り除く	
	給紙ローラーが汚れている	給紙ローラー清掃	6.保守･点検･消耗品
	静電気の異常発生	市販の静電気除去スプレーを吹きかける	
	印刷直後で湿っている	乾いてから使用する	
スタートキーを押しても給紙しない	給紙テーブル上に用紙がない、少ない	給紙テーブル上に用紙をのせる	
	安全カバーが開いている	安全カバーを閉じる	
	排紙フォトセンサーが汚れている	排紙フォトセンサー清掃	6.4 折りﾛｰﾗｰの脱着･排紙ﾌｫﾄｾﾝｻｰの清掃について
シワが生じる	折りローラーに紙片が巻きついている	折りカセット1・2を外して折りローラーの紙片を取り除く	
	折りローラーが汚れている	折りローラー清掃	6.保守･点検･消耗品
	仕様外の用紙を使用している	仕様内の用紙を使用する	
	印刷直後の用紙のはりつき	用紙をよくさばくかインクが乾いてから紙折りをする	
	折りカセット1・2内での紙詰まり	折りカセット1・2を取り外し紙片を取除く	
	折りカセット1・2が正しくセットされていない	折りカセット1・2を正しくセットする	4.1 付属品を取付ける

現　象	原　因	処　置	参　照
	薄口で反っている用紙を使用している	用紙交換または（可能であれば）裏返す	
	印刷直後で湿っている	乾いてから使用する	
電源スイッチをＯＮしても電源が入らない	電源コードのプラグが外れている	電源コードのプラグを確実に差し込む	4.1 付属品を取付ける
	ブレーカが働いている	紙詰まり等の原因を除き、ブレーカボタンを押す	
排紙ジャムが多発する	排紙ローラーの位置が用紙サイズに適した位置にセットされていない	排紙ローラーを最適な位置にセットする	
	排紙満杯	用紙を取り除く	
給紙スリップが多発する	給紙ローラーが摩耗している	給紙ローラー交換	6.保守･点検･消耗品
	給紙ローラーに紙粉やインクの汚れがある	給紙ローラー清掃	6.保守･点検･消耗品
	仕様外の用紙を使用している	仕様内の用紙を使用する	
	用紙セパレーターが汚れている	用紙セパレーター清掃	6.保守･点検･消耗品
	給紙テーブルの用紙積載量が少ない	用紙は２０枚以上セットする	
	用紙セパレーターが摩耗している	用紙セパレーター交換	6.保守･点検･消耗品
	６０Ｈｚの機械を５０Ｈｚ地域で使用している	周波数設定を変更する	
重送が多発する	用紙セパレーターが摩耗している	用紙セパレーター交換	6.保守･点検･消耗品
	用紙セパレーターが汚れている	用紙セパレーター清掃	6.保守･点検･消耗品
	印刷済用紙が密着している	用紙をよくさばいて再セット	
	仕様外の用紙を使用している	仕様内の用紙を使用する	
	５０Ｈｚの機械を６０Ｈｚ地域で使用している	周波数設定を変更する	
紙折れが生じる	用紙のカールが大きすぎる	カールを矯正	
	微調整が正しくセットされていない	微調整を正しくセット	5.7.2 折りカセット１・２の微調整
	折りカセット１・２が正しくセットされていない	折りカセット１・２を正しくセットする	4.1 付属品を取付ける

７．２　故障の場合

修理が必要な場合は、お買い求めの販売店までご連絡ください。

８．　移設または廃棄するとき

８．１　移設

８．１．１　旧設置場所からの撤去作業

・電源スイッチを切る

・電源プラグをコンセントから抜きとる

・折りカセット１・２を外す

・補助テーブルをしまう

・排紙テーブルをしまう

８．１．２　運搬

・取り外した部品や付属品、取扱説明書を一緒に運ぶ。
・強い振動や衝撃を与えないようにする。
・保護手袋をし、2 人で底面 4 隅をしっかり持って運搬する。

８．１．３　移設先での設置

・新設の場所と同様、すべての作業を行ってください。

・旧設置場所と電源周波数が異なる場合は、使用できません。
周波数設定が必要になります。お買い求めの販売店までご連絡ください。

８．２　廃棄

廃棄する際は、各地方自治体の政令に従い産業廃棄物処理業者に依頼するなど、適切な処理をしてください。

９．製品仕様

９．１　仕様

項目	内容
用　紙　寸　法	Ｂ７（９１×１２８㎜）～Ａ３（２９７×４２０㎜） ※Ａ６・Ｂ７は２つ折り・外３つ折りのみ可、Ｂ６は観音折り不可
用　紙　質　量	４５～１０５g／㎡（２つ折りのみ１５２g／㎡） ４０～９０㎏（２つ折りのみ１３５㎏）
紙　　　　質	更紙・上質紙・上質孔版紙・中質紙 上記の紙質であっても、一度折った紙や印刷機、コピー、プリンター等による熱によってカールしている状態・波を打っている状態などの紙では、うまく折れない場合があります
折　　　　形	２つ折り・４つ折り・片袖折り・内３つ折り・外３つ折り・観音折り・その他変形折り・２回折りによるクロス折り
折　り　寸　法	最大折り寸法 折りカセット１：３２２㎜ 折りカセット２：２１６㎜
	最小折り寸法 折りカセット１：５２㎜ 折りカセット２：４４㎜
給　紙　方　式	３輪式サバキ方式
排　紙　方　式	ローラー３段階位置手動切り換え
給紙積載量	５００枚（上質紙６４g／㎡）
処　理　速　度	５０Ｈｚ／６０Ｈｚ　　Ａ４　２つ折り　８０００／９２００枚/時 　　　　　　　　　　　Ｂ４　２つ折り　７０００／８０００枚/時
操　作　方　式	手動設定方式
付　加　機　能	斜行調整・紙詰まり検知・４桁カウンタ・クロス折り用補助用紙ガイド付 ジャムマップ表示
消　費　電　力	５０Ｈｚ　６８Ｗ　　６０Ｈｚ　９３Ｗ
使　用　電　源	１００Ｖ　５０／６０Ｈｚ
機　械　寸　法	Ｗ１０２５×Ｄ５３０×Ｈ４９０㎜（使用時） Ｗ６５５×Ｄ５３０×Ｈ４９０㎜（収納時）
機　械　質　量	２７㎏

本機の仕様及び外観は改良のため、予告なく変更されることがありますのでご了承ください。

取扱説明書

紙折機　ＬＦ－８４２Ｎ

修理・その他ご不明な点については、お買い求めの販売店もしくはお客様相談室へご連絡ください。

お客様相談室
〒１６４－０００３　東京都中野区東中野２丁目６番11号
ＴＥＬ　フリーダイヤル　０１２０－０７４４１６
ＦＡＸ　フリーダイヤル　０１２０－４０２５３９

株式会社ライオン事務器

本　　社　〒164-0003　東京都中野区東中野2丁目6番11号　TEL03-3369-1111
東京本店　〒103-0004　東京都中央区東日本橋2丁目24番14号　TEL03-3865-1211
大阪本店　〒577-8560　大阪府東大阪市長田中3丁目5番44号　TEL06-6747-5681